



平成23年3月25日 乳幼児教室卒園式
～余震が続くなかで～

第十八回 平成二十三年四月一日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂三-三-二十五

東日本大震災の影響
岩崎 裕治 副院長

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。平成二十三年三月十一日の大震災についてご報告します。

発生直後にはわからなかった大きな被害状況が少しずつ明らかになり、その被害の大きさに驚愕する思いです。被災地の医師たちからも情報が入るようになりました。病院や施設では、地震による直接の被害もあったようですが建物自体は大丈夫なところが多く、当初は情報の途絶と物資の不足、燃料不足が一番問題であったようです。電気は停電のために非常用電源になっていくが、非常用電源の発電機の燃料が確保できないという緊急度の高いものや、また職員の車通勤の燃料が手に入らないなど、様々な影響がありました。またこのような災害時には弱者に対する配慮の余裕がなくなる恐れがあります。被災地や避難所で、障害をもった児や方たちがどのように暮らしているのかも気になるところです。

当センターでは、幸い建物に大きな問題はありませんでした。入所の方たちも、体調を大きく崩すようなことはなかったようです。しかし当日は面会に来られていたご家族や、外来受診さ

れていた方たちが家に帰れず、何人かの方はセンター内に泊まっていたかれました。外来では在宅で人工呼吸管理などをされている患者様もあり、地震のあとに一時的にそのような方たちを受け入れることも考えておりましたが、計画停電などでバッテリーの相談を受けた以外は何とか皆様乗り切ってくださいました。その後被災地からの患者様のご相談にいらした方以外は今のところ要請はありません。

現在は、計画停電などのために節電へのご協力をお願いしております。また工場の被災などで、リネン類や、寝具などの納品が止まるなどの影響がありました。薬剤では、エシユアリキッドやラコールなどの経管栄養剤がやはり工場の被災で、供給が滞っている状況があります。計画停電も数か月単位で考えられているようなので、もう少しこの地震の影響は続きそうです。

地震発生以来、我々も今までの防災の対応や、リスクマネージメントにつき、もう一度見直しし、再検討してまいりました。今後の余震や、原発による汚染などにつきましても、情報を把握し、注意深く見守っていきたくと考えております。

成人式

平成二十三年一月十二日(水)三階西病棟ダイニングにて成人式が執り行われました。かっこいい袴姿の成人者(一名)はご家族、母校の先生方：に囲まれ少し緊張した面持ちでしたが、式が進むにつれ、にこやかな表情やキラリとした大人な表情になりました。

まず、有馬院長、主治医の佐藤先生、高橋看護長から祝辞を頂きました。シャノンメリーで乾杯をした後は、生誕から二十歳までのスライドショーです。当時の思い出と写真を見て涙ぐむ場面も…。職員からは、力強い和太鼓の演奏と、いきものがかりの『ありがとう』を全員で心を込めて歌いお祝いしました。利用者一人ひとりの指型をスタンプし「花束」にした色紙と、スタッフのメッセージが入ったMDと色紙、花束を、先輩利用者より贈呈して頂きました。「二十歳の誓い」では、キラキラの笑顔で元気な声を聞かせて下さり、会場全体が感動と笑顔に包まれました。涙あり笑顔ありの素敵な成人のお祝いとなりました。



三西病棟成人式

通所「成人式を終えて」

一月十二日通所ではお二方の成人を祝う会を盛大に行いました。前年から準備を始め、ご本人、ご家族ともにご協力をいただきながら進めてゆきました。当日男性はスーツ、女性は着物に身を包み、緊張をしながらもとても立派なお姿での登場でした。

院長先生からのお祝いの言葉、卒業した学校の先生からのお手紙と熱いエールをたくさん頂いた後はお二人の生い立ちを追ったスライドショー。「かわいいい!」「懐かしい」と仲間からの言葉。ご家族の感動もひとしおだったと思います。そしてご家族からのお手紙。時々目を合わせながら読まれる手紙の一言一言は二十年の重みを感じ、心に響きました。

午後は職員総出で「世界でひとつだけの花」に振り付けをつけて楽しんで頂きました。突然飛び出した獅子舞に思わず全員びっくり。成人者を始め全員はぐりと囃んでもらいました。一日とおして素敵な時間となりました。



乳幼児教室卒園式

三月二十五日(金)青空広がる気持ちの良い朝、プレイルームでは幼児通所(ぼればれ)の卒園式が行われました。室長の話から始まり、賞状授与・スライドショー・歌・卒園児のこぼなど、一つ一つをかみ締めるように聞いていた三人。

「卒園児のことば」では、ママが一生懸命話しているのをしっかりと横で聞き、感極まったところで「ごほん」と咳払いでママの気持ちをそっと支えお手伝い。ニコニコママと一緒に左手を良く動かしてご挨拶。涙ほろりママには優しい視線で「がんばって!」とエール。三人三様母子の心とむやり取りも垣間見ることの出来た素敵な卒園式となりました。

ぼればれで過ごした日々を胸に小学校へ行って大きく羽ばたいて下さい。ご卒園おめでとうございます。

かもめ分教室卒業を祝う会

三月二十四日に平成二十二年度かもめ分教室卒業を祝う会がセンタープレイルームにて行われました。先ごろ起こった東日本大震災の余震が続く中、一時は全体での開催も危惧されましたが、余震も収まり予定通り開催することが出来ました。

今年度は、小学部一名、中学部二名、高等部三名の方々が卒業を迎えられました。担任と共に入場してきた卒業生達は、どの方もこの数年間での成長の様子がその表情などから見受けられました。式典は、慣れ親しんだ「かもめ分教室のテーマソング」から始まり、祝辞、スライドショー、卒業証書授与へと続きました。出席された保護者の皆様も一様に感慨深い面持ちで、その様子からは色々なご苦労があったものと推測され、胸が熱くなりました。学校生活では、たくさん経験積み、多くの楽しい思い出を作った事と思われまます。卒業生の皆様には、この貴重な経験を基にこれからの新生活においても頑張ってください。



卒業証書授与

自慢メニュー紹介

「ソフト食」
「おいしい食事」



重症児(者)食特有の工夫にトロミをつけること」があります。パサつく食物や刻み食が口腔内でまとまりやすい・口腔内をゆっくり移動するので嚥下準備がしやすい等、食物を食べ易くする点でトロミは役立ちます。ただし、硬くなる程のトロミは危険です。多量類のトロミ剤(別名・増粘剤)が市販されていますので出来上がった料理が同じ硬さに感じられるように、食材ごとに自分なりの基準を作っておきましょう。更に近年、視覚でも楽しめる(トロミ食を固めた)ソフト食が混ざるだけで出来るゲル化剤が開発されています。

東日本大震災について

平成二十三年三月十一日(金)の午後二時四十六分に宮城県沖を震源とするM9の大地震と大規模な津波が発生しました。センターでは人的被害は無く、通所の玄関付近が二センチほど低下したり、プールの水が溢れて廊下に流れ出すなどの他、エレベーターが一時全機使用できなくなりました。その後は、電車などが運休したため帰宅が困難になり、利用者のご家族十四名、実習生二名や職員四十一名が帰れなくなりました。

通所については、通所バスに各部門から応援を得て二人ないし三人の添乗をしてご自宅に送りました。中には自宅マンションのエレベーターが動かさず二階病棟に泊まりました。震災時は、エレベーターが使えず人海戦術で通所から二階病棟に、散歩をしていた利用者様を四階から各病棟に下ろしたり、一生懸命でした。

この日泊まったご家族や職員には、備蓄していた非常食糧や寝袋などを提供して対応しました。通所の活動など事業が一部変則となりましたが、今では全面復旧しました。今後ともしっかり災害対策に努めて行きたいと思いを新たにしています。

温かい料理にも使え、出来た料理を冷凍保存することも可能です。まずは無理をせず、ご家族とイベント食を楽しむ際に利用してみるのはいかがでしょうか。

また、出来得る限り手作りで普通の工程で作った軟らかめの料理をつぶして用意しましょう。直火で焼けた香ばしさ・野菜の香り、そして何より作りの気配りと愛情も「おいしさ」を演出してくれます。

トロミの濃度(200mlに3gを加えてマヨネーズ状になる製品の場合)

料理名 または主となる食品	加える水分量 料理に対する%	トロミ剤の濃度 (料理+水分)に対する%
魚・肉類	25~28	0.3~0.4
脂肪の多い魚料理	15~28	0.5~0.7
揚げ物料理	25~40	0.2~0.3
豆腐料理	0~15	0.3
シチュー等の汁物類	0	0.3~0.7
卵料理(いり卵)	15	0.5~0.7
卵料理(だし巻き)	0~10	0.4
芋類・煮物	10	0.7
野菜類・和え物	15	1

節電対策について

東日本大震災に伴い、東京電力福島第一原子力発電所が被災したため、原発事故発生直後から照明の見直しとエレベーターやプールの使用制限等を実施してきましたが、今後、電力供給事情の好転が見込まれない場合は更なる強力な節電対策が求められます。現在までにセンターが行った節電対策により、震災前と震災後を比較すると、平日で二十九パーセント、休日で二十パーセントも電気使用量の節約が出来ました。しかし、これから夏場に向っては冷房の使用により電気使用量の増加が見込まれるため、新たな節電対策を講じる必要に迫られることとなります。利用者の皆さまにはご不便をおかけすることになりますが、職員一同知恵を出し合っこの危機を乗り切っていくかなければなりません。より一層の協力をお願いします。

東部あれこれ

今年の一月から三月にかけて当センターで行われた行事等について紹介します。

ボランティア紹介 山田 洋平さん

幼い頃から習い続けている大好きなバイオリンで、人に喜んでもらえることをしたいと思ったのが活動を始めたきっかけでした。活動を通じて気付いたことは、音楽は世代や個々のおかれた環境を超えて楽しめるものだという事です。演奏をしている時に、施設の職員と利用者の方が一緒になって、リズムに合わせて身体を動かしてくれます。

自分の演奏が、他の人の心に届いていると思うと非常に嬉しくて、音楽を続けていてよかったと思えます。人に聴いてもらうという緊張感から今まで以上に日々の練習に力が入るようになりました。活動を通じて、同じボランティア仲間も増えました。これからも時間を見つけて活動を続けていきたいと思っています。



演奏する山田洋平さん

【一月】
もう、お気づきですか？駐車場脇の庭で立ち枯れていたハナミズキが撤去され、カントリーレッド(百日紅の一種)が植えられたことを。カントリーレッドは空に向かって伸び、枝が横に張り出さないため駐車の際の乗り降りに支障をきたさないのです。夏には濃いピンク色の花が咲くそうですのでお楽しみに。

【二月】
カラスが怖い。入所者のご家族から、「子どもを連れて中庭を散歩しているとき大きなカラスが何羽も水浴びをしており、カラスに危害を加えられるのではないかと心配である」との訴えがあり、早速その対策として水辺周辺にテグスを張り巡らしました。なお、糸と糸との間隔が大きいため、スズメや鳩などの小鳥には影響がないと思います。

【三月】
九日(水)に第三回院内研究報告会が開催され、演題数は昨年と同じ十三題でした。いずれの研究報告も秀作で、結果の報告時間を大幅に超過するほど審査に時間を要しましたが、褥瘡対策委員会が発表した「東部療育センターにおける重症心身障害児(者)の褥瘡の実態」が最優秀賞に選ばれました。

地域通所連絡会

三月四日に東部療育センターで東部地区の通所施設の職員向けに研修と情報交換会を実施しました。この会は今回で四回目となりますが、当センターの医療や療育の情報提供や地域との連携を目的としています。

一部の研修会では摂食・嚥下をテーマに中村歯科医師と山際作業療法士から摂食嚥下の仕組みや摂食訓練の概要等の講義と実習を実施しました。実習では二人一組になり、ヨーグルトを介助で食べる経験等してもらいました。実際に経験することで、摂食時に声をかけたり、食べ物を見せたりといった情報を与えることや姿勢の大切さを実感できた様子で大変好評でした。

二部の情報交換会では東京都福祉保健局障害者施策推進部の係長も交え、通所事業についての意見交換を行いました。地域通所での医療ケアの推進にはバックアップ体制の充実や要綱等の必要性が議論されました。



研修会風景



研究報告会で受賞された皆さん

編集後記

センター職員一同、このたびの東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りすると共に、被災された方々にお見舞い申し上げます。

これまで、このような大規模災害が発生することをあまり意識せずに生活を送っている方が大半かと思われれますが、今後は常に危機意識を持ちながら暮らすことが大切だとつくづく感じました。